

研 究 主 論 文 抄 録

論文題目

「旧制第五高等学校工学部・熊本高等工業学校における土木技術者教育に関する研究」  
(Civil Engineering Education at Faculty of Engineering, the Fifth High School  
and Kumamoto Higher Technical School)

熊本大学大学院自然科学研究科 環境共生工学専攻 社会環境マネジメント講座  
(主任指導 小林 一郎 教授)

論文提出者

山中 孝文

( by Takafumi Yamanaka )

主論文要旨

《本文》

本論文は、旧制第五高等学校工学部のちの熊本高等工業学校における土木技術者教育に関して、その全体像を明らかにすることを目的とした土木史研究である。

第 2 章では、戦前に高等専門学を教授した官立土木技術者教育機関の中での五高工学部・熊本高工の位置づけを明らかにした。まず、五高工学部・熊本高工は全国で活躍するための土木技術者を養成する学校の初期にあたることがわかった。次に、卒業生には「工学得業士」の称号が授与されていたことがわかった。工学得業士を授与した学校は 2 校のみであった。さらに、1925 (大正 14) 年時点で、工学得業士の人数は官立土木技術者教育機関の全卒業生約 3,400 名の内、30%程度を占めていたこともわかった。

第 3 章では、実地に関する科目の中から設計演習、校外実習、卒業設計についてその特徴を分析した。まず、教育目的だけでなく学科課程や教員も実地を想定した体制が組み立てられており、実地教育が土木技術者教育の重要な位置を占めていたことがわかった。また、各科目の内容は土木構造物に関係する多くの事項を考慮して設計する力を段階的に養うものであったことがわかった。

第 4 章では、卒業生の動向を分析することで、卒業生が土木界で果たした役割を明らかにした。まず、卒業時の進路と勤務先は地方官庁が多いということがわかった。また、個々人の勤務先の変遷と詳細な個人史資料をあわせることにより、土木事業ごとに勤務先を移り変わることは一般的だったこと、それにより各地の近代化を推し進めたこと、次の勤務先へ移るきっかけには様々なパターンがあったことが明らかとなった。

第 5 章では、以上の成果をもとに、五高工学部・熊本高工でなされた土木技術者教育に対する考察・評価を行なった。